

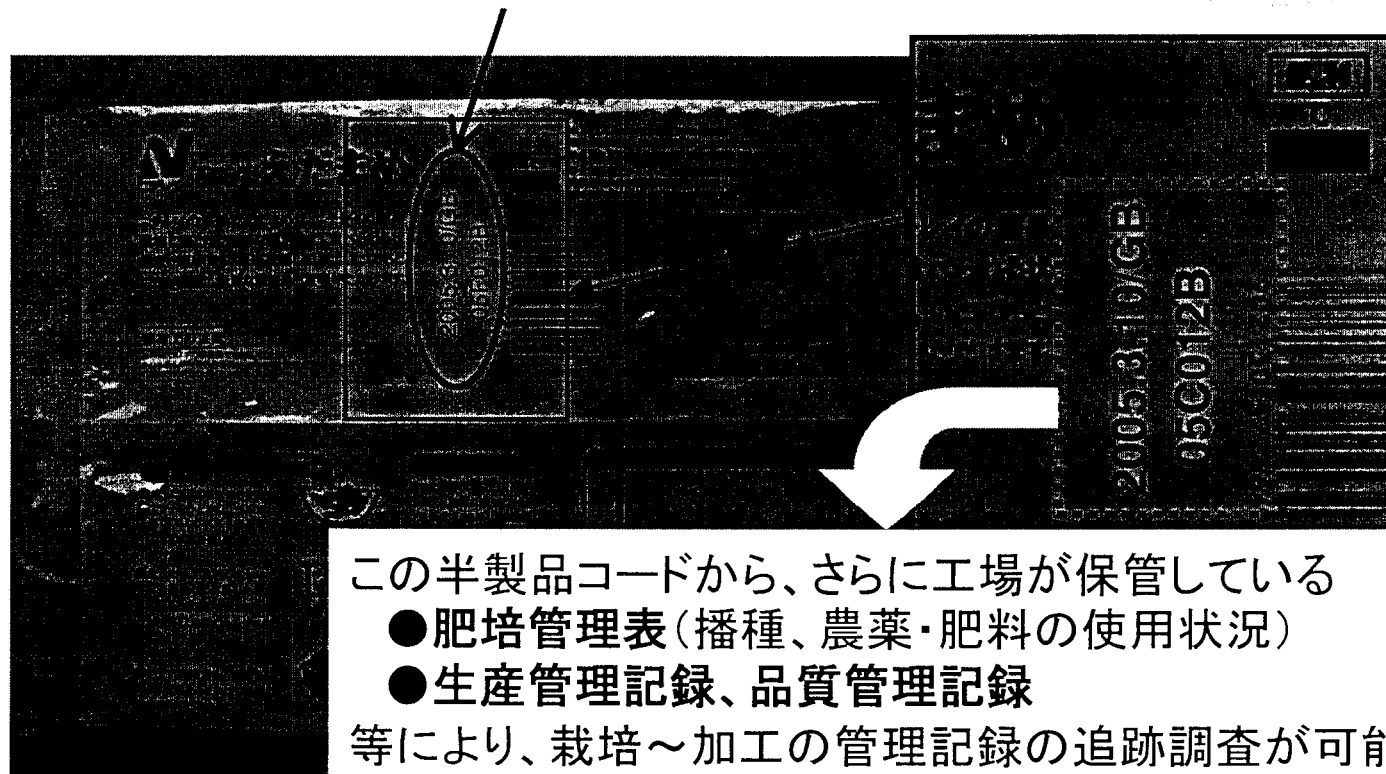


トレースバック記号の表示

賞味期限／パッカーコード

半製品コード(生産日+月+車番+生産ライン+集荷担当者)

印字がシール部分にあると、開封の際に処分される場合がありますので
印字スペースを袋裏面の中央に移しました。



【中国産冷凍ほうれん草への取組み】

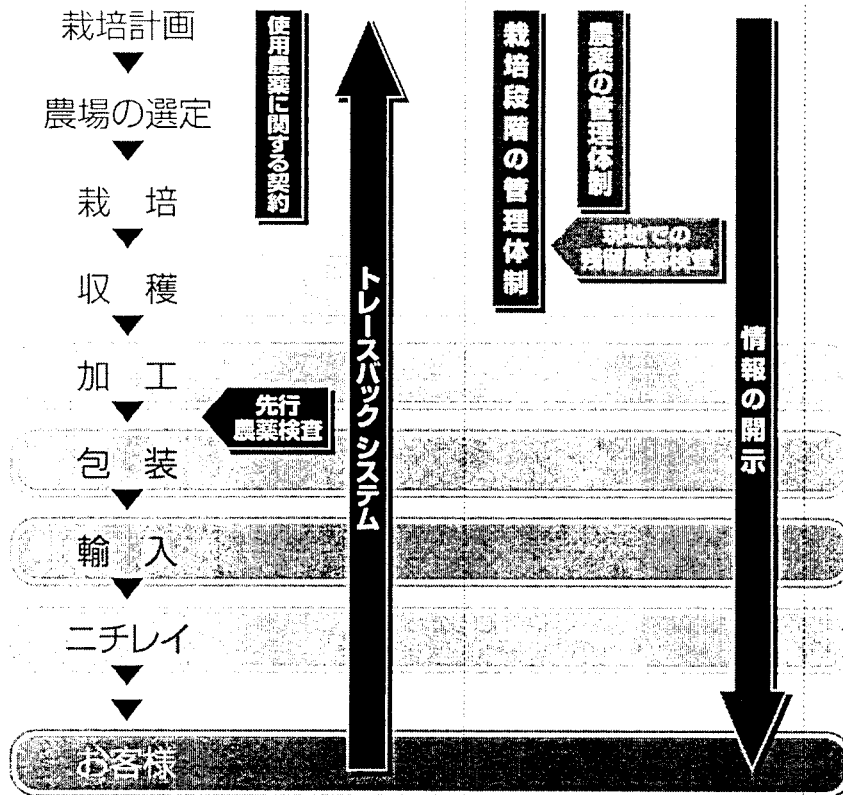
2002年 農業管理の3原則

使用農薬に関する契約
先行農薬検査
トレーバックシステム

2003年 管理強化のための施策

栽培段階の管理体制
農薬の管理体制
現地での残留農薬検査

+



【2003年 管理強化のための施策】

1. 栽培段階の管理体制

＜農場選定基準の明確化＞

- ① 自営・契約農場方式に限定
- ② 集約化・大規模化

＜農場管理の強化＞

- ① フィールドマン（農場巡回員）の組織化と教育
- ② 肥培管理の徹底
- ③ 農業指導員の派遣と現地駐在員の増員



2. 農薬の管理体制

＜農薬そのものを変更＞

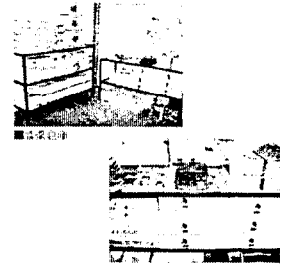
- ① 信頼できるメーカー品に変更
- ② 新規に使用農薬契約締結

＜農薬の保管・在庫管理＞

- ① 決められた倉庫で厳重に保管
- ② 運搬方法を明確化し、在庫は台帳で管理

＜農薬散布時の立会い＞

- ① 希釈・散布はフィールドマンが監視
- ② 専用タンク・大型散布機を新規購入



3. 残留農薬の検査体制

＜検査要員の技術指導＞

- ① 平成13年から日本・現地で集合研修を実施
- ② 検査機器の導入・整備を実施

＜原料検査の厳格化＞

- ① 収穫前に原料を畑単位に徹底検査
- ② 汚染原料を一切工場に持ち込ませない体制

＜食品安全センター中国分室設置＞

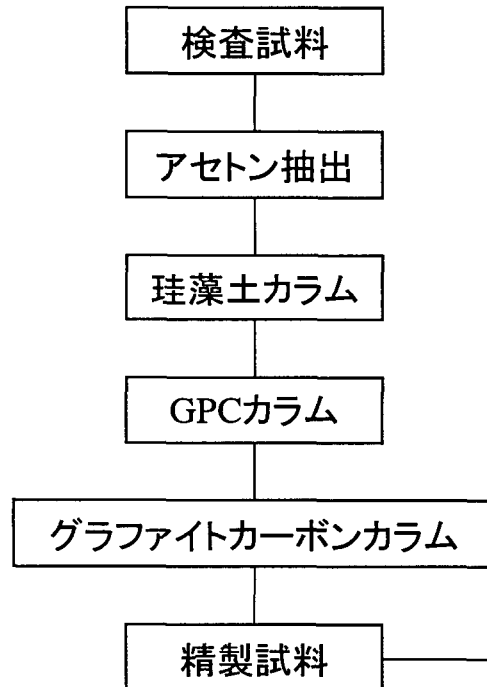
- ① 現地での検査・監査を強化



食品安全センターの残留農薬検査概況

残留農薬検査

抽出・精製



機器分析

- ・GC/MS (Varian Saturn 2000&2100)
- ・LC/MS (Agilent 1100-MSD x2)

確認試験

→ LC/MS/MS (ABI API-2000)

検査項目

- ・現在は130項目(次のスライド)
- ・ポジティブリスト化に合わせて、250項目程度まで拡大の予定

検体数

- ・年間約2,000検体
- ・先行農薬検査は1,300検体/年

要員数 5名

検査対象農薬一覧

2004年5月更新

No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界
1	BHC	0.02	29	キナルホス	0.01	57	チオメトン	0.01	85	ピリメタニル	0.01	113	ベルメトリン	0.02
2	DDT	0.02	30	キントゼン	0.01	58	チフルザミド	0.01	86	フィプロニル	0.01	114	ベンシクロン	0.1
3	EPN	0.02	31	クレソキシムメチル	0.01	59	ディルドリン	0.01	87	フェナリモル	0.02	115	ベンダイオカルブ	0.005
4	EPTC	0.01	32	クロルピリホス	0.01	60	テニルクロル	0.01	88	フェントロチオン	0.01	116	ベンディメタリン	0.01
5	アセタミプリド	0.01	33	クロルピリホスメチル	0.05	61	テブコナゾール	0.005	89	フェノブカルブ	0.01	117	ベンフレセート	0.02
6	アセフェート	0.01	34	クロルフェナビル	0.01	62	テブフェンピラド	0.01	90	フェンスルホチオン	0.02	118	ホレート	0.01
7	アトラジン	0.01	35	クロルフェンビンホス	0.02	63	テフルトリン	0.01	91	フェンチオン	0.01	119	マラチオン	0.01
8	アラクロール	0.005	36	クロルプロファミ	0.01	64	デルタメトリン	0.01	92	フェントエート	0.01	120	ミクロブタニル	0.02
9	インフェンホス	0.002	37	クロルベンジレート	0.02	65	テルブホス	0.005	93	フェンバレレート	0.005	121	メソミル	0.05
10	インプロカルブ	0.1	38	シアノホス	0.05	66	トラロメトリン	0.01	94	フェンプロバトリン	0.01	122	メタミドホス	0.01
11	イプロジオン	0.05	39	ジエトフェンカルブ	0.01	67	トリアジメノール	0.01	95	ブタミホス	0.01	123	メタラキシル	0.05
12	イミダクロプリド	0.05	40	ジクロラン	0.05	68	トリアジメホン	0.05	96	ブチレート	0.01	124	メチオカルブ	0.004
13	エスプロカルブ	0.01	41	ジクロルボス	0.01	69	トリアソホス	0.05	97	ブプロフェジン	0.05	125	メチダチオン	0.05
14	エチオフェンカルブ	0.005	42	ジコホール	0.05	70	トリフルミゾール	0.05	98	フルアジナム	0.05	126	メトキシクロル	0.01
15	エチオン	0.02	43	シハロトリン	0.02	71	トリフルラリン	0.005	99	フルシトリネート	0.005	127	メトラクロール	0.005
16	エディフェンホス	0.02	44	ジフェノコナゾール	0.01	72	トルクロホスメチル	0.02	100	フルシラゾール	0.01	128	メトリブジン	0.01
17	エトキシキン	0.05	45	シフルトリン	0.05	73	パクロブトラゾール	0.005	101	フルトラニル	0.025	129	メプロニル	0.01
18	エトフェンブロックス	0.02	46	シプロコナゾール	0.005	74	パラチオン	0.01	102	フルバリネート	0.01	130	モノクロトホス	0.05
19	エトプロホス	0.005	47	シベルメトリン	0.01	75	パラチオンメチル	0.01	103	フルフェノクスロン	0.01			
20	エトリジアゾール	0.05	48	ジメチルビンホス	0.04	76	ハルフェンブロックス	0.02	104	プレチラクロール	0.01			
21	エトリムホス	0.01	49	ジメテナミド	0.01	77	ビテルタノール	0.01	105	プロシミドン	0.01			
22	エンドスルファン	0.02	50	ジメトエート	0.02	78	ビフェノックス	0.005	106	プロチオホス	0.01			
23	エンドリン	0.01	51	ジメモルフ	0.01	79	ビフェントリン	0.01	107	プロバホス	0.05			
24	オキサジアゾン	0.05	52	シメトリン	0.01	80	ピラフルフェンエチル	0.02	108	プロバルジット	0.05			
25	オキシカルボキシ	0.05	53	シラフルオフェン	0.05	81	ピリダベン	0.01	109	プロピコナゾール	0.01			
26	カズサホス	0.01	54	シンメチリン	0.005	82	ピリフェノックス	0.01	110	プロフェノホス	0.05			
27	カルバリル	0.05	55	ダイアジノン	0.01	83	ピリミカーブ	0.005	111	ヘキサコナゾール	0.01			
28	カルボフラン	0.05	56	チオベンカルブ	0.05	84	ピリミホスメチル	0.01	112	ヘプタクロル	0.01			

単位: ppm

学会発表、投稿論文

- ・イオントラップ型GC/MS/MSによる残留農薬多成分分析の検討: 食品衛生学雑誌、第43巻 pp.280-288(2002年).
- ・GC/MS/MSによる農産物中残留農薬一斉分析の検討: 日本食品衛生学会第85回学術講演会(2003年).

中国国内での輸出前検査・管理体制の構築 日本国内と中国の現地検査体制の構築

